

**那覇空港施設
西海岸道路(浦添北道路)
視 察 報 告 書**

平成 28 年 1 月 20 日（水）

主催：地域・経済活性化委員会

1.参加者

A班

	氏名	所属	役職
1	松尾 孝司	(株)IHI	沖縄オフィス所長
2	外間 晃	(株)アレックス	代表取締役
3	駒井 俊彦	伊藤忠丸紅テクノスチール(株)	沖縄営業所長
4	仲田 憲仁	エールクリエイト(株)	代表取締役
5	佐藤 基之	(株)OTSサービス経営研究所	代表取締役社長
6	花城 忠司	(株)おきぎんジェーシービー	代表取締役社長
7	知念 克明	沖電開発(株)	代表取締役社長
8	大嶺 克成	(株)沖電工	代表取締役社長
9	野口 慎治	沖縄出光(株)	代表取締役社長
10	金城 唯士	(株)沖縄銀行	代表取締役専務
11	金城 善輝	(株)沖縄銀行	常務取締役
12	佐喜真 實	学校法人 沖縄大学	常務理事
13	東 良和	沖縄ソーリスト(株)	代表取締役会長
14	仲本 幸平	沖縄テクノクリート(株)	専務取締役
15	荒木 俊輝	沖縄東芝(株)	代表取締役社長
16	中村 博之	沖縄フレッシュパック(株)	代表取締役社長
17	松本 眞一	(株)金秀本社	代表取締役社長
18	小林 文彦	川崎重工業(株)沖縄支社	支社長
19	徳永 修一	(株)九電工 沖縄支店	理事 支店長
20	比嘉 盛朋	(株)国建	代表取締役社長
21	鈴木 英男	住友商事九州(株)沖縄支店	取締役沖縄支店長
22	宮里 一	セコム琉球(株)	代表取締役社長
23	吉田 健夫	大成建設(株)九州支店沖縄営業所	営業所長
24	梶原 浩美	大和ハウス工業(株)沖縄支店	支店長
25	萩田 一	大和リース(株) 沖縄支店	支店長
26	近藤 亮	大和リース(株) 沖縄支店	流通建築営業所長
27	中山 洋一	大和リース(株) 沖縄支店	規格建築営業所長
28	時庭 弘則	戸田建設(株)九州支店沖縄営業所	所長
29	湧川 盛順	那覇空港ビルディング(株)	専務取締役
30	金城 毅	(一財)南西地域産業活性化センター	上席研究員
31	比嘉 正彦	沖縄経済同友会	事務局長

B班

	氏名	所属	役職
1	大谷 利幸	(株)乃村工藝社	沖縄営業所 所長
2	井上 剛	野村證券(株) 那覇支店	支店長
3	宮里 学	ファーストライディングテクノロジー(株)	代表取締役社長
4	水田 正明	フォーモストブルーシール(株)	代表取締役社長
5	木田 岳美	丸紅(株)	那覇支店長
6	飯沼 武	三井住友海上火災保険(株)	沖縄支店長
7	木村 博	三井物産(株) 那覇支店	支店長
8	小林 玲子	三井物産(株) 那覇支店	支店長代理
9	河西 雄史	三菱商事(株)	那覇支店長
10	山内 眞樹	山内公認会計士事務所	所長
11	仲吉 良次	(株)ゆがふホールディングス	代表取締役社長CFO
12	前田 貴子	(株)ゆがふホールディングス	代表取締役専務
13	高良 幸明	(株)琉球銀行	常務取締役
14	林 秀寛	(株)琉球銀行	常務取締役
15	松原 知之	(株)琉球銀行	常務取締役
16	有村 昌造	琉球サンロイヤルホテル(株)	代表取締役社長
17	池端 透	(株)りゅうぎん総合研究所	代表取締役社長
18	安田 幾夫	(株)琉球リース	代表取締役社長
19	金城 克也	(株)りゅうせき	代表取締役会長
20	當銘 春夫	(株)りゅうせき	代表取締役社長
21	城間 祥進	(株)りゅうせき	専務取締役
22	尚 諭	(株)りゅうせき	常務取締役
23	島袋 博文	(株)りゅうせき	部長
24	喜納 義人	(株)りゅうせき	統括マネージャー
25	上原 邦夫	(株)りゅうせき	課長
26	新城 裕一	(株)りゅうせき	課長
27	渡慶次 雄一	(株)りゅうせき	係長
28	阿嘉 夏樹	(株)りゅうせき	
29	名嘉村 裕子	(株)りゅうせきビジネスサービス	代表取締役社長
30	稲嶺 侃	(株)琉薬	代表取締役社長
31	山根 義文	沖縄経済同友会	事務局次長
32	義元 勇次	沖縄経済同友会	事務局研究員

<参加者計：63名>

2.日程

【H28.1.20】	A班	B班
12:50	集合・受付(沖縄県議会前、パレット久茂地向かい)	
13:00	出発	
移動(30分)		
13:30 ～ 15:40 (130分)	①ANA物流ハブ 13:35～14:10(35分) 移動(10分) ②サザンゲート 14:20～14:55(35分) 移動(25分) ③第2滑走路 15:20～15:40(20分)	①サザンゲート 13:35～14:10(35分) 移動(10分) ②ANA物流ハブ 14:20～14:55(35分) 移動(15分) ③第2滑走路 15:10～15:40(30分)
移動(60分)		
16:40 ～ 17:00	西海岸道路(浦添北道路)視察(20分)	
移動(60分)		
18:00	解散(沖縄県議会前)	

3.視察の目的

地域・経済活性化委員会では、那覇空港・那覇港を基軸とする国際物流拠点の形成、第3のリーディング産業として期待される臨港・臨港型産業及び、交通環境の改善に取り組んでいる沖縄西海岸道路の整備状況等の調査・研究を目的に、那覇空港施設(①ANA国際物流ハブ施設、②沖縄グローバルロジスティクスセンター(通称・サザンゲート)、③那覇空港第二滑走路)、沖縄西海岸道路(浦添北道路)を視察した。会員からの関心も高く、多くの参加申込みがあり、2班に分け、バス2台に乗り分けての視察となった。

視察にご協力頂きました、

桑田 保広様 ((株)ANA Cargo 沖縄統括室 担当部長)
 前成 博次様 (沖縄ヤマト運輸(株) 沖縄通関事務所 副所長)
 具志堅 和也様 (沖縄ヤマト運輸(株) グローバル事業推進課長)
 堀口 友寛様 (沖縄ヤマト運輸(株) グローバル事業推進課長)
 坂 克人様 (内閣府沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 所長)
 細見 暁彦様 (内閣府沖縄総合事務局 空港整備課長・那覇空港プロジェクト室長)
 與那覇 健次様 (内閣府沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 副所長)
 上原 啓文様 (内閣府沖縄総合事務局 南部国道事務所 副所長)
 宮城 一正様 (内閣府沖縄総合事務局 建設行政課 課長補佐) その他スタッフの皆様
 この場をお借りして、御礼申し上げます。

4.視察先別の報告

視察①【ANA国際物流ハブ施設視察】



(説明頂いた桑田様)



1.「旅客と貨物のネットワークを結び、独自の航空物流ネットワークを構築」

那覇空港を起点に 日本とアジアの主要都市を結ぶ 貨物便ネットワーク

① 貨物専用機 (B767-F) を
アジア主要都市へ深夜通航

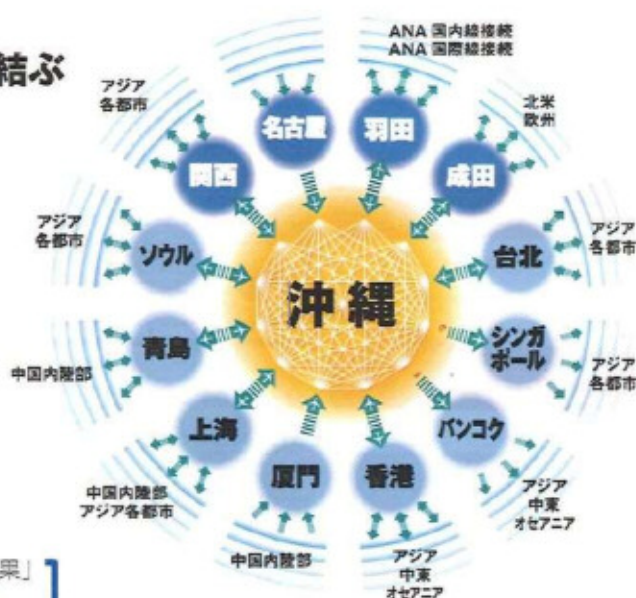
② 羽田経由で日本国内の
主要都市への接続もスピーディ

③ 国内20の直行旅客便路線あり

④ アジア域内間の
急送ニーズにも対応可能

「ハブ&スポークによるネットワーク効果」

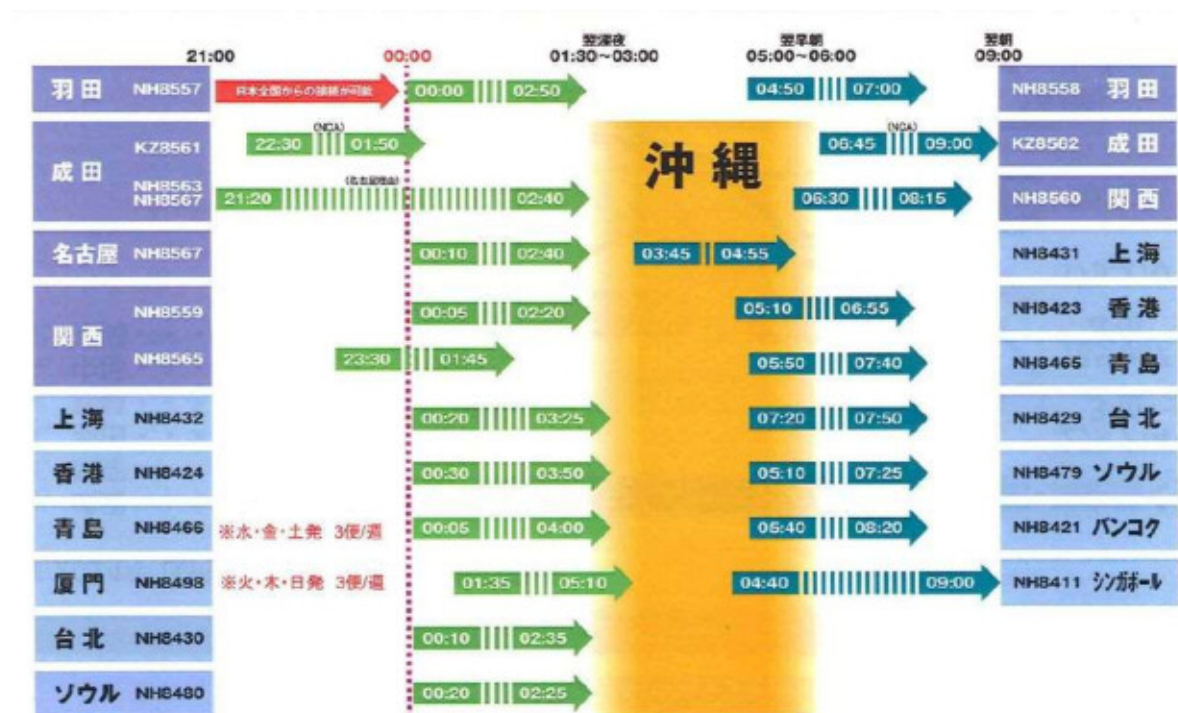
12都市全64路線



(講演資料より)

- アジアの主要都市から4時間圏内の立地を生かし、日本4都市（成田、羽田、名古屋、関西）とアジア8都市（ソウル、青島、上海、厦門、香港、バンコク、シンガポール、台北）の12都市を結んでいます。
- ハブ&スポーク空港として、各地と64路線のネットワークを構築します。ANAでは旅客便を含め国内線1,093便/日、国際線1,163便/週の運行があり、これにより日本各地の貨物の高品質な輸送が可能になります。

2. タイムスケジュール



(講演資料より)

○各地を夜中 0 時に出発し、真夜中に沖縄に到着します。ここで積み替え作業を行い、早朝に沖縄を出発し、アジアへは朝の 8 時ごろに到着します。空港よりトラックで輸送して、昼頃にはお客様の手元に到着することが出来ます。

＊北海道⇒シンガポール＊

札幌⇒(1 時間)⇒羽田⇒(2 時間半)⇒沖縄⇒(4 時間)⇒シンガポール：計 8 時間。

羽田と沖縄での積み替え時間(各 2 時間、計 4 時間)を考慮しても 12 時間。

半日で届けられる計算です。

○夜中に積み替え作業を行う必要があり、24 時間空港であることが条件となります。

(国内の 24 時間空港は、千歳・羽田・中部・関西・北九州・沖縄のみ)

また、沖縄は 24 時間通関が可能で、深夜に税関検査が出来ることも大きな優位性です。

○官民一体となった取組が、沖縄の地理的、歴史的、文化的優位性と上手く融合し、沖縄を日本の対アジアビジネス戦略のゲートウェイとして機能することに期待されています。



(事務所内視察の様子)



(倉庫内視察の様子)

3. 沖縄国際ハブ施設の概要



(講演資料より)

- 敷地面積は約 28 千㎡ (サッカーコート 4 面分)。飛行機が横付け出来るようになっており、施設内には、24 時間通関可能な税関エリアがあります。一部はヤマト運輸へ賃貸しており、生鮮貨物の仕分けを行っています。
- 深夜に稼働しているため、ほとんどの職員が夜中 12 時の出勤です。オペレーションセンターのある事務所に 50 名、貨物庫に 50 名、航空誘導に 100 名、総勢 200 名程が働いています。
- 税関検査エリアには、X 線検査装置も設置され、この場で検査も出来ます。
24 時間通関が可能で、留め置きせずに早朝便で出荷出来るようになっています。
- 施設内は保税エリアとなります。隣接する駐機場へは最大 9 機止められます。ANA では飛行機を約 240 機所有しており、うち貨物専用機は 11 機あります。この春からは 12 機目の貨物専用機を導入予定です。
- 沖縄県では、国の「アジア・ゲートウェイ構想」を受け、第 3 次沖縄振興開発計画において、物流中継加工拠点の形成を図っております。ANA のアジア物流拠点形成の戦略と県の構想が一致し 2009 年より供用開始し、今年で 6 年目となります。
- 那覇空港の国際貨物取扱量は、供用開始後より年々増加し、2014 年の取扱量は成田、関空、羽田に次ぐ国内 4 位となっています。
- ハブ施設へは、年間 200 回、2,500 名超の視察を受け入れており、安倍首相や島尻大臣も視察されており、関心の高さが伺えます。
- 東京では 300 円程のホタテが、香港のすし屋では 1 貫 1,200 円程で売られています。輸送費は海上輸送に比べると割高になるが、新鮮な食材を翌日に届けられる付加価値 (時間価値) が見込めるビジネスがターゲットになります。
- ANA ではヤマト運輸と連携し、日本各地の農水産品をアジアへ輸出する物流プラットフォームを構築しました。また、各地方自治体とも連携し、物流促進を図っています。
- 4 号棟 (サザンゲート) には、東芝のパーツセンターが出来ました。ANA ハブを活用することで、深夜まで受注を受けられ、サービス向上に繋がっています。県が設置した物流施設を安いコストで利用でき、特区に指定されているため、優遇税制や助成金も利用できます。
- 今後は、第 2 滑走路も増設され、さらに利便性向上が見込めます。また、MRO (航空整備事業) やセントラルキッチン構想など、物流施設を活用した新たなビジネスの広がりにも期待できます。

視察②【沖縄グローバルロジスティクスセンター（通称・サザンゲート）視察】

1. 施設概要

国際物流拠点産業集積地域 沖縄グローバルロジスティクスセンター		1階床面積	
	倉庫	3,121㎡	945坪
	事務所	155㎡	46坪
	その他	2,007㎡	608坪
	計	5,283㎡	1,600坪
		2階床面積	
	倉庫	3,334㎡	1,010坪
	事務所	228㎡	69坪
	その他	1,751㎡	530坪
	計	5,313㎡	1,610坪
		3階床面積	
	倉庫	3,334㎡	1,010坪
	事務所	228㎡	69坪
	その他	1,632㎡	494坪
	計	5,194㎡	1,573坪
		4階床面積	
	倉庫	2,735㎡	828坪
	事務所	228㎡	69坪
	その他	2,145㎡	650坪
	計	5,108㎡	1,547坪
		5階床面積	
	倉庫	2,733㎡	828坪
	事務所	228㎡	69坪
	その他	2,145㎡	650坪
	計	5,106㎡	1,547坪
		有効倉庫面積	
		15,257㎡	4,621坪

○沖縄県の物流センター4号棟を1棟賃借しています。通称サザンゲート（南の拠点）と呼んでいます。昨年11月より運用開始しており、5階建てで、各階に倉庫スペースがあり、ワンフロアは約1000坪となっています。



（施設内視察の様子）

2. 3F 東芝パーツセンターの説明

- 広さは約1,000坪です。こちらには東芝のATM紙幣処理機の保守パーツが保管されています。
- パーツは約4,500種類、13万ピースあります。
- 一部のエリア（シャッターの閉じられた場所内）には、紙幣処理機の本体が保管されています。こちらのエリアは保税地域となり、外貨として保管しています。約800台保管しています。
- 床は防塵加工しており、空調管理も行っています。精密機械のある保税エリアは温度・湿度管理も行っています。
- 本体（ATM機）は韓国製です。出荷待ちの状態、仕向け地もほぼ決まっています。

製品の仕様変更の要望に対し、コアな部分は日本で手を加えたいとの東芝サイドの要望もあり、沖縄で保管しています。沖縄は釜山からの船も就航しており、ANA 貨物は仁川向けに就航していることも沖縄に保管している理由です。

- 保守パーツについては、ヤマト運輸と東芝のシステムを連携してお互いに管理出来るようになっています。パーツの種類毎に最低保管在庫数を決めてあり、下回ると自動的に供給（補充）される仕組みになっています。
- 一部海上航路も使用しながら、ANA ハブより主にアジア向けに供給しています。ANA ハブは深夜便となるため、それに合わせて深夜に出荷出来る体制を取っています。今後は 24 時間体制とする予定です。
- 一部のパーツは、シンガポールにも保管してあります。シンガポールの空港から第 3 国へも供給できる体制を取っています。メインは沖縄に置き、シンガポールの在庫が不足した際は、沖縄からシンガポールへ供給しています。
- フロアの一部は欧州向けの「RoHS 指令部品エリア」になっています。欧州法に基づいた管理を行っており、特別にエリアを分けています。管理方法の規定により、こちらでは使用する作業台や台車も分け、管理するスタッフも特別な講習を受ける必要があります。

3. 2F 部分（化粧品 OEM、通販ラック）の説明

【通販ラックエリア】

- フロアの造りは 3F と同じで、約 1,000 坪の広さがあります。
- 沖縄・離島向けの通販商品の分散在庫として保管してあります。



（イメージ図：car watch HP より）



（説明頂いた具志堅様、後ろにフラップスが見える）

- 備えてあるラックに工夫があり、固定式のラックと、下にキャスターが付いて移動できるラックを組み合わせてあります。「FRAPS（フラップス）：free rack auto pick system」と呼ぶシステムを取っています。
- 各ラックにバーコードが着いており、商品と紐づけして管理します。
出荷をする際は、固定ラックに移動式のラックをセットします。固定ラックにはランプと個数が表示されるモニターが付いてあり、表示される出荷指示に基づいて商品を取りボタンを押すと、次のラインに流れるようになっています。そして、検品検査を受け梱包されます。
作業員が作業しやすく、ミスが起きないようにしています。未経験者でもすぐに作業できるように工夫してあります。
- 今後は ANA のネットワークと融合し、アジア向けに発送していきたいと考えています。

【ホシケミカルズ（化粧品充填 OEM）エリア】

- 化粧品の充填作業が行われています。原料をまとめて配送し、こちらでボトリング、ラベリング、パッケージング作業を行っています。
- 出荷先は国内からスタートして、ゆくゆくはアジア向けを視野に入れています。また、保税エリア化して、海外の原料を輸入し、保税工場として使用できないかも検討しています。
- 4F、5F のフロアは空いており、入居者を募集しています。例えば、アジア向けの生鮮貨物の仕分け地として使用したいとの要望があれば、低温倉庫に造り替えることも可能です。
- こちらは、空港にも港にも近い立地であり、特区にも指定されている為、税制の優遇措置等も受けることが出来ます。

視察③【那覇空港第二滑走路視察】

1. 那覇空港滑走路増設事業 (現況)

滑走路	3,000M (1本)
旅客実績 (平成28年1月)	<国内>140往復/日、 県外22路線、離島6路線 <国際>152往復/週 <貨物>70.5往復/週 (平成28年1月)
旅客数 (平成26年度)	1,753万人 (全国6位) *滑走路1本の空港では福岡に次ぎ全国2位
発着回数 (H26年度)	15.5万回 (全国4位) *滑走路1本の空港では福岡に次ぎ全国2位

<空港整備事業の概要>

○滑走路処理容量：13.5万回/年 ⇒ 18.5万回/年

○総事業費：約1,993億円

- ・平成25年度予算額：137億円 (うち国費：130億円)
- ・平成26年度予算額：347億円 (うち国費：330億円)
- ・平成27年度予算額：347億円 (うち国費：330億円)

<今後のスケジュール>

平成31年12月 工事完了予定

平成32年3月31日 供用開始予定

<施行計画の概要>

①護岸工事：護岸を建造し、外周を締め切る

- ・水深が浅い場所は「緩傾斜式護岸方式」
- ↓
- ・水深が深い場所は「ケーソン式護岸」にて行う。
*ケーソン（コンクリートブロック）は約60函投入予定。現在は31函据え置いている。

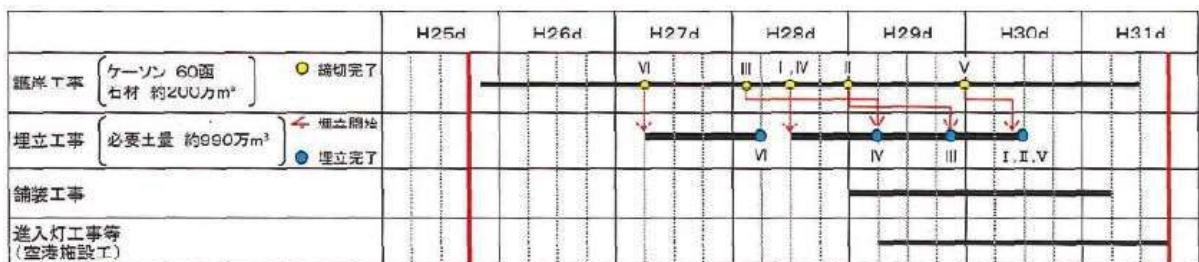
②埋立工事：土砂を投入

- ・埋立土の搬入方法
購入砂・岩ずり・浚渫土：海上輸送を基本とする
- ↓
- 建設発生土、航空事業発生土等：陸上輸送を基本
- ・埋立土量の想定・・・合計990万m³

③舗装工事・空港施設工事：埋立地上に核施設を設置

- ・舗装工・・・基本施設【滑走路2,700m、着陸帯、誘導路】
- ・航空保安施設・・・ILS（計器着陸装置）、PAR（精測進入レーダー）、進入灯等
- ・建築工事・・・管制塔（高さ約80mを想定）、消防施設等

<施工スケジュール>



視察④【沖縄西海岸道路（浦添北道路）視察】

1. 沖縄県の道路事業の概要



(講演資料より)

『ハシゴ道路』

○沖縄自動車道、国道 58 号、329 号を柱としたハシゴ上の道路ネットワークを構築することにより、渋滞の解消や事故の抑制、物流の効率化を図ります。

ハシゴ道路の 4 つの要素

1. 南北を走る強固な「3 本柱」
2. 柱を支える「東西連絡道路」
3. 高速を使いやすくする IC の増設
4. モノレールと高速バスの連携



(講演資料より)

那覇都市圏交通円滑化 (2 環状 7 放射道路)

○渋滞の著しい那覇都市圏の渋滞解・緩和に向けて、①交通経路の分散（経路選択を拡大）、②交通手段の分散（自動車から公共交通機関への利用転換を図る）、③交通利用時間の分散（時差出勤を推進する）の「3 つの分散」による交通円滑化を目指した「那覇都市圏交通円滑化総合計画」を策定し、各種取り組みを推進します。

2. 沖縄西海岸道路



(講演資料より)

- 沖縄西海岸道路は、読谷村から糸満市に至る延長約 50 km の道路であり、那覇空港自動車道と那覇空港、那覇港といった交通拠点と相互に連絡します。
- 恩納海岸地区、南部西海岸地域の産業拠点となる糸満工業団地等と那覇市、空港等を連絡することで、観光の支援、地域の活性化、地域振興プロジェクトの支援に資する道路として整備を進めています。
- 那覇西道路（うみそらトンネル）、豊見城・糸満道路（暫定で 2 車線）が、既に開通している。糸満道路は来年度には、4 車線開通予定。



3 浦添北道路



（講演資料より）

○浦添北道路は沖縄西海岸道路の一部を構成する道路であり、①国道58号線及び周辺道路の混雑緩和、交通事故抑制、交通環境の改善等、②那覇空港・那覇港等へのアクセス性の向上、③地域交流及び地域活性化の促進を目的としている。那覇西道路（うみそらトンネル）、臨港道路と接続することで、那覇空港から宜野湾バイパスまで連絡され、58号線の渋滞緩和が期待できます。
*今回は、浦添北道路の牧港高架橋上部工工事（宜野湾バイパスとの連結地点）を視察した。

- 浦添北道路は、総事業費約400億円をかけ建設される宜野湾バイパスから、浦添港川までの約2kmの自動車専用道路です。
- 牧港高架橋の区間（視察場所）、沖縄電力の区間、港川架橋の区間の3区間に分け工事を進めています。
- 工事の進捗は、牧港架橋区間は、後2脚を残して橋脚の工事が完了、沖縄電力の区間は既に改良工事が進んでいます。港川の区間は、柱の工事は終了し、橋桁の工事を行っています。
- 臨港道路と浦添北道路の間にある（空寿岬の部分）で、埋蔵文化財が見つかり、現在発掘調査中です。開通時期は、文化財調査の目途が立ち次第、公表する予定です。
- 終点の港川地点と城間交差点間を結ぶ事業（港川道路事業）を沖縄県の事業として進めており、将来的には連結される予定です。

（文責：沖縄経済同友会事務局）